

## スマホ依存と時間非整合性の関連

北野 貴大<sup>1</sup>

### 要約

本論文では、スマホ依存と時間非整合性に関する調査を、質問紙を用いて行い、そして、この2つに相関関係があるのかを分析した。対象者を大学生に絞り、Google form も用いて質問紙を作成し、SNS を通じて回答を募集した。その結果、女性 3 名、男性 14 名の計 17 名集めることが出来た。分析結果として、時間非整合性の質問紙のうち、仮想選択とスマホ依存の関しては差がみられなかった。一方夏休みの課題の計画と実施とスマホ依存に關しては仮説通りの結果が見られた。

JEL 分類番号： D91

キーワード：時間非整合性、スマホ依存、仮想選択、夏休みの課題の計画と実施

---

<sup>1</sup> 立命館大学総合心理学部 cp0009eh@ed.ritsumeai.ac.jp

## 1. はじめに

今日、わが国における携帯電話の世帯普及率は 95.6% を超え（総務省, 2009）ている。日本中どこにいても、若者が携帯電話やメール機能を利用してコミュニケーションする姿を、簡単に見つけることができることから、携帯電話が若者の重要なコミュニケーション手段であることが容易に推定できる（広瀬ほか, 2011）。また、若者の中でも特に大学生に多く見られると考える。

本研究は、スマホ依存尺度を用いて、大学生のスマホ依存度を図り、さらに、時間非整合性に関する尺度を用いて、大学生の先延ばし傾向の有無を調査する。そして、時間非整合性がある人とスマホ依存度が高い人との間に相関関係があるのかを分析することを目的とする。

## 2. 質問紙調査

### 2.1 質問紙調査の実施概要

質問紙調査は、大学生を対象に Google フォームを用いて実施した。回答期間は 2019 年 8 月 1 日～2019 年 8 月 20 日までの 20 日間であり、17 の有効回答が得られた。

表 1：回答者の属性

		回答数
性別	男性	14
	女性	3
年齢	23 歳	1
	22 歳	5
	21 歳	9
	20 歳	1
	19 歳	1
立命館生ですか？	はい	10
	いいえ	7
総合心理学部生ですか？	はい	4
	いいえ	11
どのようにして調査を知ったか	調査者から直接聞いた	11
	調査者の SNS を通じて	3
	監督者の SNS を通じて	3

## 2.2 質問紙の内容

質問紙の内容は、(戸田ほか (2004) の 20 項目の CPDQ (a cellular phone dependence questionnaire)) のうちスマホ依存傾向を図るもの 18 項目、時間非整合性を図るもの 16 項目で調査を行った。時間選好率に関する質問では Coller and Williams(1999) に代表される Multiple Price List (MPL) 法を用いた。時間非整合性の 16 項目のうち 14 項目は「仮想的選択」、2 項目は「夏休み課題の計画と実施について」に分けて調査を行った。スマホ依存を図る尺度では該当する 4 点、やや該当する 3 点、あまり該当しない 2 点、該当しない 1 点、の点数をそれぞれに与えた。また、合計得点が高い人ほど依存度が強いとした。

## 2. 仮説

時間非整合性である人ほど、スマホ依存傾向が高いと仮説を立てる。

## 4. 結果

### 4.1. 仮想選択とスマホ依存の結果

表 2 仮想選択とスマホ依存

	スマホ依存度
時間整合性	48.9点
時間非整合性	47.4点

表 2 より、時間整合性 9 名の依存度平均 48.9 点と非整合性 8 名のスマホ依存度平均 47.4 点と私が立てた仮説とは異なる結果となった。

### 4.2. 夏休み課題の計画と実施とスマホ依存の結果

表 3 夏休みの課題の計画と実施

	スマホ依存
時間整合性	46.0点
時間非整合性	50.1点

表 3 より、時間整合性 8 名の依存度平均 46.0 点と非整合性 9 名のスマホ依存度平均 50.1 点と差がみられた。また、初めに立てた仮説通りの結果となった。

## 5. 考察

今回の結果は、仮想選択と夏休みの課題の計画と実施の間で、一貫した結果とならなかった。その理由の一つとしてサンプルサイズが足りなかったと考える。今後は、サンプル

サイズを今以上に増やし、結果に有意差を出していきたい。この他にも、男女差の比較、年齢差なども比較項目に加え、分析していきたい。

#### 引用文献

広瀬 万宝子・井奈波 良一・黒川 淳一・井上 正人 (2011). 日韓女子大生における携帯依存傾向と心理的ストレスとの関係. 民族衛星, 77, 1, 19-25.

盛本 晶子 (2018). 時間選好率および現在バイアス性がオンラインゲーム内コンテンツへの課金行動に与える影響. 行動経済学, 第 11 卷, 1-13.